



平成 26 年 5 月 5 日
ストラスブール研究連絡センター

フランス高等教育研究省(MESR)

●「ブノワ・アモン氏、国民教育・高等教育・研究大臣に任命」

2014 年 3 月 31 日、マニユエル・ヴァルス内閣の発足に伴い、4 月 2 日、ブノワ・アモン氏が国民教育・高等教育・研究大臣に任命された。

氏は、2012 年 6 月から 2014 年 3 月まで、経済・財務大臣付社会的・連帯経済・消費担当大臣を務めた。

・フランス高等教育研究省“Benoît Hamon, ministre de l'Education nationale, de l'Enseignement supérieur et de la Recherche”(2014 年 4 月 2 日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/pid24643/le-ministre.html>

・在日フランス大使館(2014 年 4 月 4 日) <http://www.ambafrance-jp.org/article5805>

●「Pierre-Louis Lions 氏にレジオン・ドヌール勲章コマンドール位を授与」

ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育研究大臣は、数学者の Pierre-Louis Lions 氏に、レジオン・ドヌール 3 等勲章を授与した。

氏は、1994 年のフィールズ賞受賞を始め、I.B.M.フランス賞(1987 年)、科学アカデミーのアンペア賞(1992 年)、Finance Europlace 研究所賞(2003 年)、Inria 大賞(2012 年)等、多数の賞を受賞している。また、コレージュ・ド・フランスの教授、科学アカデミー委員を務めている。

・フランス高等教育研究省“Remise du grade de commandeur de la Légion d'honneur à Pierre-Louis Lions”(2014 年 3 月 12 日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid77638/remise-du-grade-de-commandeur-de-la-legion-d-honneur-a-pierre-louis-lions.html>

●「PEPITE プロジェクト公募の結果発表」

2014 年 3 月 18 日、ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育研究大臣は、PEPITE(イノベーション・転換・起業学生拠点)プロジェクト公募の結果を発表した。

その結果、応募された 29 プロジェクトのうち、25 件が採択された。残りの 4 件は、近くヒアリングを行って評価する予定である。

本プロジェクトでは、3年間で460万ユーロの予算を計上して、上述の25プロジェクトを支援する。その内、高等教育研究省は300万ユーロ(過去の同様のプロジェクトでは120万ユーロ)、C.D.C.は100万ユーロ、生産再建省は60万ユーロを負担する。

PEPITE プロジェクトは、高等教育研究省が、生産再建省と預金供託公庫(C.D.C.)と提携して、2013年10月に開始し、学生が在学中にイノベーションや起業を実現するための支援を、以下の5つの方針に基づいて行う。

- ・2014-2016年度のPEPITEプロジェクト公募は、2014年度初頭に始まる。

- ・学部生から修士課程までの、起業とイノベーションに関する教育は、2014年度から開始する。

- ・起業プロジェクトを有する学生・卒業生に授与する「学生起業家」の地位創設は、2014年度から開始する。

- ・PEPITEからの優れたプロジェクトへの資金援助は、高等教育研究省が主催する「革新的企業の創設援助ナショナルコンクール」として、「学生起業跳躍台賞」を設けて行う(2014年の応募書類提出締め切りは3月31日)。

- ・修士課程・博士課程の学生を対象にした知的財産権と転移に関する教育を、SATT(技術転移加速協会)とインキュベーターと提携して行う。

- ・フランス高等教育研究省 “Geneviève Fioraso présente les résultats de l'appel à projets PEPITE favorisant l'entrepreneuriat étudiant”(2014年3月18日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid77746/genevieve-fioraso-presente-les-resultats-de-l-appel-a-projets-pepите.html>

●「アルゼンチン科学大臣の MINATEC キャンパス訪問」

2014年3月21日、アルゼンチン共和国大統領の公式訪問の一環で、ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育研究大臣は、Lino Baraño アルゼンチン科学技術生産イノベーション大臣を、グルノーブルのマイクロ・ナノテクノロジーのイノベーションキャンパスである、MINATEC で迎えた。

両国の大臣による二国間会議と研究所訪問の結果、両大臣は、MINATEC 所長の Jean-Charles Guibert 氏と共に、マイクロ・ナノテクノロジー分野におけるフランスとアルゼンチンの協力関係の発展に関する覚書に署名し、両国の協力体制を強化した。

- ・フランス高等教育研究省 “Visite du ministre argentin de la Science Lino Baraño sur le Campus MINATEC”(2014年3月24日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid78153/visite-du-ministre-argentin-de-la-science-lino-baranao-sur-le-campus-minatec.html>

●「CERN-ESA 間の協定」

2014年3月28日、ジュネーブで、欧州宇宙閣議の非公式会合で、ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育研究大臣と Mauro Dell'Ambrogio スイス連邦教育研究イノベーション庁官は、欧州宇宙

機関(ESA)－欧州原子核研究機構(CERN)間の協力協定署名式を執り行った。これにより、ハイパフォーマンス・コンピューティング、シミュレーション、極限材料、複雑系などの最先端技術分野における、両機関の研究パートナーシップの強化を目指す。

・フランス高等教育研究省“Signature d'un accord entre le CERN et l'ESA”(2014年3月28日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid78430/signature-d-un-accord-entre-le-cern-et-l-esa.html>

フランス国立科学研究センター(CNRS)

●「海藻の生物多様性に関するフランス-チリ国際混成研究ユニットの創設」

2014年3月17日、CNRS、UPMC(ピエール マリー・キュリー大学)、チリの2大学(チリカトリックローマ教皇大学/PUCCh、チリ南大学/UACH)が、海洋進化生物学・生態学の分野における共同研究強化のため、国際混成研究ユニット(UMI)創設協定に署名した。本ユニットは、EBEA(Evolutionary Biology and Ecology of Algae/海藻生態学・進化生物学)と命名され、1997年に開始した両国間の共同研究に基づいた、CNRSとチリの3番目のUMIに当たる。UMIには10名の常勤職員、6名の博士課程の学生、4名のポスドクからなり、生態学、進化学、集団遺伝学、海洋学、藻類学の研究者を結集させた学際的取り組みとして、海藻のゲノミクス、進化、生態学に焦点を当てる。

・CNRS “Création d'une Unité mixte internationale franco-chilienne sur la biodiversité des algues marines”(2014年3月17日)

<http://www2.cnrs.fr/presse/communiqu/3471.htm>

フランス国立研究機構(ANR)

●「人文社会科学の欧米パートナーシップ」

2014年3月5日、人文社会科学プラットフォームである、T-AP(Trans-Atlantic Platform)イニシアチブが、公に開始された。本ネットワークには、ANRを含む、欧州とアメリカの15の研究資金支援機関が結集する。アメリカ大陸からは、ブラジル、カナダ、米国、メキシコが、欧州からはドイツ、フィンランド、フランス、オランダ、ポルトガル、英国が参加する。3年間、欧州委員会からの資金を受ける本プロジェクトは、人文社会科学分野における研究資金支援機関のコラボレーションとしては世界初の取り組みとなる。

・ANR “Lancement d'un partenariat Europe-Amériques en sciences humaines et sociales”(2014年3

月 6 日)

<http://www.agence-nationale-recherche.fr/informations/actualites/detail/lancement-dun-partenariat-europe-ameriques-en-sciences-humaines-et-sociales/>

●「優れた研究者の受け入れ」

研究者の移動が世界的に活発になっていることを背景に、ANR は、外国からの研究者を良い条件で受け入れて、フランスの科学分野の地位強化を狙っている。そのために、個人を対象にした資金援助制度「優れた研究者の受け入れ(@RAction)」を提案する。@RAction では、国籍に関わらず、優秀な研究者が、フランスの著名研究機関で研究プロジェクトを遂行できるようにすることを目指す。ANR の資金は、フランスの研究所が、その受け入れを実施するために使われる。

プロジェクト公募は全ての科学分野で行われ、世界的に第一線クラスの研究者を対象にしたものと、将来を嘱望される若手研究者を対象にしたものの 2 種類がある。ANR による資金供給額は、15 万-90 万ユーロ程度を予定している。

・ANR “Accueil de chercheurs de haut niveau : un dispositif gagnant-gagnant”(2014 年 4 月 2 日)

<http://www.agence-nationale-recherche.fr/informations/actualites/detail/accueil-de-chercheurs-de-haut-niveau-un-dispositif-gagnant-gagnant/>

フランス国立研究機構(ANR)・フランス国立農業研究所(INRA)

●「REAGIR 未来を考えるワークショップの総括」

2012 年 9 月に、ANR が開始した REAGIR 未来を考える作業部会 (ARP REAGIR) のコンソーシアムでは、社会科学、自然科学、物理学の研究者、及び公共・民間企業の代表者らが集まり、地域規模・地球規模での、環境と気候の地球工学的手法を、全体的かつ体系的に考察した。これは、本テーマに関する知識を結集させ、新たな研究課題を探索し、国際的に関心が高まっている分野にフランスの研究者を動員させることなどに取り組んできた。本作業部会では、リスクや不確定要素を考慮して、技術的・科学的に実行可能な面だけでなく、環境的・社会経済的・倫理的な面にも焦点を当ててきた。

ARP は、気候に関する地球工学に関する体系的な研究を継続すること、及び、本テーマにフランスが参加して、専門性を維持することが必要であると結論付けた。最終報告書は、2014 年 4 月に ANR と APR REAGIR のホームページに公開される。

・ANR “Géo-ingénierie environnementale : conclusions de l'Atelier de Réflexion Prospective REAGIR”(2014 年 3 月 27 日)

<http://www.agence-nationale-recherche.fr/informations/actualites/detail/geo-ingenierie-environnementale-conclusions-de-l-atelier-de-reflexion-prospective-reagir/>

・INRA “Conclusions de l'Atelier de Réflexion Prospective REAGIR. Synthèse de 18 mois de

travaux sur la géo-ingénierie environnementale”(2014年3月27日)

<http://presse.inra.fr/Ressources/Communiqués-de-presse/Prospective-REAGIR>

国立衛生医学研究所 (INSERM)

●「INSERM 創立 50 周年記念シンポジウム」

2014年4月3日、Inserm は創立 50 周年を記念して、ソルボンヌの大講堂で討論会を開催した。本シンポジウムでは、研究者、政治家、経済関係者、患者が組織する団体関係者らが参加し、社会の変化に伴う保健・生命科学の役割や、学際性、将来について考察した。

・INSERM “Revoir le colloque organisé à l’occasion des 50 ans de l’Inserm”(2014年4月4日)

<http://www.inserm.fr/actualites/rubriques/actualites-evenements/revoir-le-colloque-organise-a-l-occasion-des-50-ans-de-l-inserm>

●「Destination Labo 2014、小・中学生、高校生に研究の世界を紹介」

Inserm は毎年、「Destination Labo (ラボ体験) 計画」として、小・中学生と高校生を対象に、研究の世界を紹介するイベントを行っている。この日はフランス各地で、たくさんの子供たちが Inserm の研究室に集まり、研究者の生活を体験する。実験室を訪問したり、研究者と日々の研究生活について意見を交わしたりするなどのイベントを行い、子供たちのこの分野への理解を促すことを目的としている。

今年の「Destination Labo」は5月16日に行われる。

・INSERM “Destination Labo 2014”(2014年)

<http://www.inserm.fr/actualites/rubriques/actualites-evenements/destination-labo-2014>

フランス国立情報学自動制御研究所 (INRIA)

●「Innorobo 2014 ロボット工学国際展示会に Inria のグループが参加」

2014年3月18-20日、リヨンで開催されるロボット工学国際展示会「Innorobo」では、4チームが Inria のスタンドで展示を行う。Inria チームの展示内容は以下の通り。

Flowers チーム: ロボットや人間が、運動能力、インタラクティブティ、社会性を習得するメカニズムを研究している。Innorobo では、人間の歩行習得メカニズムを研究する上で開発されたヒューマノイド「Poppy」を紹介する。

Lagadic チーム: 視覚の自動制御や連続した映像のリアルタイム追跡調査などの、ロボットの視覚

(コンピュータービジョン)を専門にしている。Innorobo では、自動運転システム(3D 地図作成と都市環境における自立ナビゲーション)と運動機能が低下した人の補助機能を紹介する。

Non-A チーム:ロボット工学と信号処理における有限時間の新アルゴリズムを開発している。この新アルゴリズムは、コントローラーやロボット工学、信号処理などの様々な分野に応用できる。

Innorobo では TurtleBot と WifiBot を紹介する。

E-Motion チーム:ロボットのような人工システムに、知覚機能や判断能力、行動能力を与えるためのアルゴリズム的手法とモデルの開発を手掛けている。Innorobo では、利用者の意思で制御できる機能を備えた車椅子と、乗り物に搭載された知覚能力(動くものを検知し追跡する機能)を紹介する。

・INRA “ Inria présente ses travaux en robotique à Innorobo 2014”(2014 年 3 月 17 日)

<http://www.inria.fr/actualite/actualites-inria/inria-a-innorobo-2014>

●「Inria と Raoul Follereau 高校が提携協定に署名」

2014 年 3 月 20 日、Inria とディジョンアカデミーの Raoul Follereau 高校が、同校の会議室で、提携協定に署名した。本協定は、ロボット工学活動への参加を通して、若者、とりわけ女子生徒の情報科学への興味を深めることを主要目的としている。

同校のロボット工学クラスは、2013 年度より、27 名の生徒を迎えている。この制度は、ディジョン大学区芸術・文化教育アカデミー代表(DAAC)課によって企画されており、「革新的体制」として知られている。ブルゴーニュの科学文化クラス 8 クラス中、Follereau 高校は、唯一のロボット工学クラスを有している。

・INRA “ Inria et le lycée Raoul Follereau signent une convention de partenariat”(2014 年 4 月 7 日)

<http://www.inria.fr/centre/bordeaux/actualites/inria-et-le-lycee-raoul-follereau-signent-une-convention-de-partenariat>